

淑女超特急 (1941)

THAT UNCERTAIN FEELING

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 84分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

90年代に入ってのさまざまな映画の再発見ブームの中でも、ルビッチへの回帰は時代的要請と云っていいほどの必然を感じ、また、おおいに堪能もした。が、彼のハリウッド時代で唯一の本邦未公開の本作を観ての率直な感想は、なるほど、これまで未公開もむべなるかな。期待したほどの出来ではなかったのである。

構図としてはいつもの結婚喜劇で、舞台はニューヨーク。三角関係を綾なすは、原因不明のしゃっくりに悩まされるヒロイン・ジル（オベロン）、その夫で保険会社重役のラリー（ダグラス）、そして、ジルが訪れた精神科で知り合った天才肌のピアニスト・セバスチャン（メレディス）。精神科医の診断は、ご多聞に漏れず、しゃっくりの源は夫婦生活にあり。で、ジルはセバスチャンと危うい仲になり、それを心配したラリーは妻奪還計画の秘策を友人の弁護士と共に練ることになる。

エキセントリックで奇行癖の目立つセバスチャンは相当に喜劇的人物ではあり、結局のところ、本作で最も印象に残るのだが、美しく聡明なジルとバランスの取れた存在ではないし、メレディスの芝居にも演技過剰が目立ち、少々、観ていて疲れた。脚本にスチュワートを擁し、ルビッチ自家薬籠中のテーマではあるが、ブームの最中にもビデオ・リリースが先行したということでもわかるように、巨匠まづは無難にこなしたという程度の作品で終わっている。

【クレジット】

| | | |
|------|--|--|
| 監督 | エルンスト・ルビッチ | Ernst Lubitsch |
| 製作 | エルンスト・ルビッチ | Ernst Lubitsch |
| 原作戯曲 | エミール・デナジャック ヴィクトリアン・サルドウ | Emile DeNajac Victorien Sardou |
| 脚本 | ウォルター・ライシュ ドナルド・オグデン・スチュワート | Walter Reisch Donald Ogden Stewart |
| 撮影 | ジョージ・バーンズ | George Barnes |
| 音楽 | ウェルナー・R・ハイマン | Werner R. Heymann |
| 出演 | マール・オベロン メルヴィン・ダグラス バージェス・メレディス アラン・モーブレイ オリヴ・ブレイクニー ハリー・ダヴェンポート シグ・ルーマン イヴ・アーデン リチャード・カール | Merle Oberon Melvyn Douglas Burgess Meredith Alan Mowbray Olive Blakeney Harry Davenport Sig Ruman Eve Arden Richard Carle |